

いちばん深いところは、水深1万m以上！ 海の中にも、山や谷がある



水深が200mより浅い、「大陸棚」とよばれる場所に、多くの生物がくらしている。

クジラやイルカにも、陸に近い海で食べものをとるものたくさんいる。

海岸に立って海をながめてみると、海はどこまでも平らに見えます。しかし、海の底は、けっして平らではありません。大きな岩があったり、陸とおなじように高い山や深い谷があり、それぞれの場所に、さまざまな生きものがくらしています。



海の中にも、山脈や火山がある

海の中にも、山があります。陸地とおなじように火山もあり、なかには噴火をして、溶岩や熱水をふきあげている場所もあります。また、海の中には谷もあって、世界じゅうの海でいちばん深い場所は、なんと水深1万m以上。きゅうに深くなっていて、富士山が3つ重なってしずんでしまうぐらいの深さがあります。

このように、海底は平らではなく、浅い場所や深い場所があり、いろいろな地形をしています。

生きものがたくさんいるのは、陸のそば

ほとんどの生物がくらすのは、陸に近い深さ200mまでの海です。なぜなら、そこには太陽の光がとどき、陸からは栄養分をふくんだ水が流れてきて、植物プランクトン（➡p.76）や海藻がたくさん育つからです。

植物プランクトンや海藻が育つと、それを食べる動物プランクトンや小さな生物がふえます。すると、小さな生物を食べる魚なども集まり、たくさんの生物が、

多くの生物が、斜面にあるくぼみを利用して、かくれたり、食べものをとったりしている。

ウナギのなかには、深海を泳いで数千kmはなれた場所に卵を産みにいくものもいる。

太陽の光がとどかない海の底にも、カニや貝、ヒトデ、ナマコなどの生きものがいる。

陸に近い浅い海にくらすようになります。

しかし、深い海にも、数は少ないですが生物はいます。深さが200mをこえると、太陽の光はほとんどとどかず、あたりいちめんまっ暗です。そこには、光がない場所でも、食べものをみつめてくらすことができる魚やイカ、貝など、浅い海の生物とはちがう種類の生物がいます。これらを「深海生物」とよびます。

深海には、「毒ガス」の中で生きる生物もいる

深海の火山のそばには、「硫化水素」というガスがまざったお湯が出ている場所があります。硫化水素は、「温泉のにおい」というとわかる人もいかもしれませんが、ほとんどの生きものの体には害があるガスです。

ところが、この硫化水素がまざったお湯の中だけでふえる細菌がいます。そして、このお湯の中には、その細菌を食べて生きているカニや貝などもあります。これらの生物は、多くの生きものとはぎやくに、硫化水素がないと生きていけないのです。

動物プランクトンのなかには、昼のあいだは魚にみつからないように深海にかくれてすごし、夜になると海の表面に浮いてきて、植物プランクトンを食べるものもいる。

陸からはなれた海のまん中でも、少しの栄養と太陽の光を使って、植物プランクトンが生まれる。

深い海には、浅いところからふってくる生物の死がいやふんなどを食べて生きる、クラゲやナマコなどがいる。

深海にくらす魚のなかには、夜になると浅いところへ浮かんでき、食べものをとるものもいる。

死んで海底にしずんだクジラやイルカなどは、深海の生きものたちの食べものになる。

海の中にも、山脈や火山がある。海底火山の噴火によって海面から岩が突きだし、島ができることもある。

海の中にある谷は、「海溝」とよばれる。なかには、深さが8000～1万mもある場所もある。